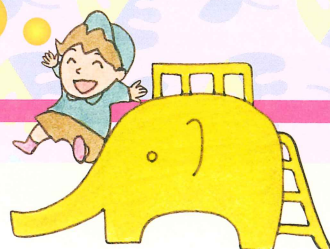


不活化ワクチン

日本脳炎



日本脳炎ってどんな病気？

日本脳炎は人から人へ直接感染するのではなく、感染した豚の体内で増えたウイルスを蚊が媒介して感染します。7～10日間の潜伏期間の後、高熱、嘔吐、頭痛、けいれん、意識障害などの症状を

示す急性脳炎になることがあります。症状の出る人はウイルスを持った蚊にさされた人1,000～5,000人に1人程度です。夏カゼに似た症状や無菌性髄膜炎で終わる人もいます。脳炎にかかったと

きの死亡率は約15%、神経に後遺症が残る人は約50%にもなる重病です。

接種を受ける時期と間隔は？

[I期初回]

●対象者年齢

生後6～90カ月未満
(標準接種年齢:3歳)

【注意】3歳未満と3歳以上で注射の
接種量が異なります

●回数

1～4週間隔で2回の皮下注射

[I期追加]

●対象者年齢

初回接種後おおむね1年後
(標準接種年齢:4歳)

●回数

1回の皮下注射

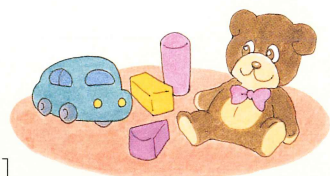
[II期]

●対象者年齢

9～13歳未満
(標準接種年齢:9歳)

●回数

1回の皮下注射



日本脳炎ワクチンの副反応は？

●まれに接種直後から翌日に、発疹、じんましん、かゆみなどがみられることがあります。

●全身症状としては37.5度以上の発熱、悪寒(さむけ)、頭痛、倦怠感、吐き気など、局所症状としては接種部位に発赤、腫れ、痛みなどがみられることがあります。通常は2～3日で消えます。

●ごくまれに接種後数日～2週間程度で急性散在性脳脊髄炎(ADEM)などの重い副反応がみられる場合があるといわれています。



◎日本脳炎ワクチン接種について

日本脳炎ワクチンは、2009年6月から従来のマウスの脳を使った製造法に代わって新しく細胞培養(Vero細胞：アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞)を使ったワクチンが開発され、使用開始されました。先般、II期の接種でも本ワクチンの有効性・安全性が確認されたため、定期接種に位置付けさ

れました。これから日本脳炎ワクチンの接種を受ける方は、すべてこのワクチンを接種いたします。

なお、新ワクチンは供給体制が完全ではありませんので、I期の接種を優先していますが、2010年8月27日の省令改正でII期の接種にも使用可能となりました。詳しくはかかりつけの医師にご相談ください。

●接種日メモ

